

出雲市中小企業景況調査結果（平田商工会議所管内）

今 期（2009年10－12月）の 概 要

調査期間 平成22年1月5日～1月18日

対象企業 調査対象企業数30社 回答率27社（回答率 90%）
内訳：建設業4社、製造業6社、卸売業2社、小売業9社、サービス業6社

概 況

○全業種の今期業況DIをみると、年末の需要期ではありましたが、前期比で $\Delta 45.8$ （前期調査 $\Delta 43.3$ ）とやや悪化しました。前年同期比では $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 51.7$ ）とマイナス幅がやや縮小しています。来期業況見通しDIは、今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 37.9$ ）とマイナス幅が拡大しています。

○全業種の今期売上DIは、前期比で $\Delta 28.0$ （前期調査 $\Delta 62.1$ ）とマイナス幅が大きく縮小し、前年同期比でも $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 69.0$ ）とマイナス幅が縮小しています。来期売上見通しDIは今期比で 48.0 （前期調査 $\Delta 60.7$ ）とマイナス幅が縮小しており、今後も緩やかに回復していくものと予測しています。

業種別景況調査の主要DI

1、建設業

・今期業況DIが前期比で $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）と増減なしとなっています。また、今期売上DIは前期比でも $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が縮小し、前年同期比では $\Delta 25.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）と増減なしとなっています。

全体的に公共事業の縮小傾向は続くものとみていますが、管工事業では好調さもみられます。

- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 25.0$ ）とマイナス幅が拡大していますが、売上見通し DI は $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 75.0$ ）とやや持ち直すと予測しています。売上は回復するものの、採算の悪化などマイナス要因もあり、業況の改善には至らないと見込んでいます。

2、製造業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 40.0$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比では $\Delta 40.0$ （前期調査 $\Delta 42.9$ ）とマイナス幅がやや縮小しました。また、売上 DI は前期比で 20.0 （前期調査 $\Delta 71.4$ ）と回復し、前年同期比でも $\Delta 40.0$ （前期調査 $\Delta 71.4$ ）とマイナス幅が縮小しており、売上は大きく持ち直していることが伺えます。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 40.0$ （前期調査 $\Delta 28.6$ ）とマイナス幅が拡大していますが、売上 DI は今期比で $\Delta 20.0$ （前期調査 $\Delta 42.9$ ）と、僅かながら回復するとしています。

3、卸売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 50.0$ ）とマイナス幅が拡大し、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が大きくなっています。売上 DI も前期比で $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、前年同期比でも $\Delta 100.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が大きくなっており、依然として厳しい状況が続いています。
- ・来期業況見通し DI は、今期比で $\Delta 0.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）、売上 DI は今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 100.0$ ）とマイナス幅が大きく縮小するなど、年度末へかけて回復を予測しています。

4、小売業

- ・今期業況 DI が前期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 55.6$ ）、前年同期比でも $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）とマイナス幅が縮小しています。売上 DI は、前期比で $\Delta 37.5$ （前期調査 $\Delta 37.5$ ）と増減なく、前年同期比では $\Delta 55.6$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）とマイナス幅が縮小しています。政府の景気刺激策と年末需要に支えられた結果、売上はやや回復しています。
- ・来期業況見通し DI は今期比で $\Delta 50.0$ （前期調査 $\Delta 66.7$ ）とマイナス幅は縮小していますが、売上 DI は $\Delta 75.0$ （前期調査 $\Delta 62.5$ ）とマイナス幅が拡大しています。売上はやや悪化を予測する中、特に夏以降の息切れを心配する声も出ています。

5、サービス業

- ・ 今期業況 DI が前期比で△40.0（前期調査△50.0）、前年同期比でも△50.0（前期調査△57.1）とマイナス幅がやや縮小しています。売上 DI は前期比で△33.3（前期調査△75.0）、前年同期比でも△50.0（前期調査△85.7）とマイナス幅は縮小しています。スポーツ大会の開催や、年末の需要期にあたり旅館ホテル、飲食店などで売上が上昇しましたが、依然として節約志向の高まり、インフルエンザ流行の影響もあって苦戦が続いています。
- ・ 来期業況見通し DI は今期比で△50.0（前期調査△28.6）とマイナス幅が拡大し、売上 DI は今期比で△33.3（前期調査△57.1）とマイナス幅が縮小しています。売上は回復していくと見込んでいるものの、採算低下が懸念材料となっています。

設備投資動向

1、今期設備投資

- | | |
|-------|--|
| 全業種 | 設備投資を実施した事業所の割合は20.0%と増加し、「機械・備品」への投資が最も高い割合となっています。 |
| 建設業 | 実施割合が50.0%で、「機械・備品」「車両運搬具」の割合が高くなっています。 |
| 製造業 | 実施割合が0.0%、投資なしとなっています。 |
| 卸売業 | 実施割合が50.0%で、「土地」の割合が高くなっています。 |
| 小売業 | 実施割合が12.5%で、「OA機器」の割合が高くなっています。 |
| サービス業 | 実施割合が16.7%で、「機械・備品」の割合が高くなっています。 |

2、来期設備投資

- 全業種 計画している事業所の割合は28.0%で、「建物」「機械・備品」への投資割合が高くなっています。
- 建設業 計画している割合が75.0%で、「建物」「車両運搬具」「付帯施設」がそれぞれ同率で並んでいます。
- 製造業 計画している割合が0.0%と投資計画はなしとなっています。
- 卸売業 計画している割合が50.0%で、「建物」の割合が高くなっています。
- 小売業 計画している割合が22.2%で、「機械・備品」「OA機器」の割合が高くなっています。
- サービス業 計画している割合が20.0%で、「機械・備品」の割合が高くなっています。

経営上の問題点

- 全業種 第1位は「需要の停滞、受注減少」が64.4%と、圧倒的に高い割合です。第2位は「単価の低下・上昇難」となっています。
- 建設業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で75.0%となっています。
- 製造業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で40.0%となっています。
- 卸売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」、「人件費の増加」がそれぞれ50.0%と同率で並んでいます。

小売業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で66.7%となっています。

サービス業 第1位が「需要の停滞、受注減少」で80.0%となっています。

注：DI（業況判断指数）とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から、「減少」・「悪化」などとする企業割合を差し引いた値です。

詳細は業種別景況を参照してください。